

# 緩やかな回復基調にあるものの、足踏み 状態が続いている

ア  
ナ  
リ  
ス  
ト  
レ  
ポ  
ー  
ト

県内景気  
天気図

現在の景気



生産活動



個人消費



民間設備投資



住宅投資



公共投資



雇用情勢



3か月後の景気



凡例

- 晴れ
- 晴れ一時曇り
- 曇り
- 曇り一時雨
- 雨

前月比

- 上昇・好転
- 横ばい
- 下降・悪化



姉川河口夕陽/長浜市

## 県内景気の動向

**現状** 県内製造業の生産活動の現状を鉱工業生産指数でみると、前月に比べ輸送機械や化学は高い伸びとなったが、金属製品やはん用・生産用・業務用機械が大幅のマイナスとなったため、原指数は5か月連続のマイナス、季節調整済指数も2か月ぶりのマイナスとなった。また、季節調整済指数の3か月移動平均値は19か月ぶりに100の水準を下回るなど、弱含みで推移している。

需要面では、大型店売上高はウエイトの高い飲食料品が堅調に推移しているのに加え、衣料品が6か月ぶりのプラスになったため、全店ベース、既存店ベースともに3か月連続のプラスとなっていることが前向きな動きとしてみられるが、他の項目では引き続き厳しいものや伸び悩みがみられる。まず、民間設備投資の指標である民間非居住用建築着工床面積の3業種用計は3か月連続の大幅マイナスとなり、新設住宅着工戸数も今まで好調だった貸家が5か月ぶりの大幅マイナスとなり、持家と分譲住宅は引き続き伸び悩み、全体では3か月連続で前年を大きく下回っている。また、乗用車と軽乗用車の新車登録・販売台数は2か月あるいは3か月連続のマイナス、公共工事の請負件数と金額は前月に続きそれぞれマイナスとなった。また、雇用情勢では新規求人数が24か月ぶりに前年を下回り、有効求人倍率は5月をピークに低下し、製造業の所定外労働時間指数は前月に続き前年を下回った。

これらの状況をまとめると、製造業の生産活動は一部の業種では増産の動きがみられるが、全体的には在庫調整が長引き、弱含みで推移している。また需要

面では、大型店売上高で消費増税に伴う反動減の影響が薄れてきたため比較的堅調に推移しているが、他のほとんどの項目ではその影響が長引いているものや消費増税の影響が懸念されるものが見られる。したがって県内景気の現状は、緩やかな回復基調にあるものの、反動減や消費増税の影響により足踏みの状態が続いているものと考えられる。

**今後の動向** 県内製造業の生産活動については、海外需要は中国をはじめとする新興国景気は伸び悩みが続くとみられるものの、米国景気の本格的な回復期待から引き続き堅調に推移すると考えられるが、国内需要は長引く反動減に加え消費増税の影響がみられるため、在庫調整が長引き、弱含みの動きが続くものと考えられる。

需要面では、個人消費については、消費増税や物価の上昇といったマイナス要因から引き続き厳しいと考えられるが、食料品や日用品などの必需品を中心に底堅く推移するものとみられる。一方、乗用車や家電品などの耐久消費財の販売、新設住宅着工、民間設備投資などの投資関連の需要は、反動減に加え、消費増税の影響がみられ、回復に向けての足取りは重いと考えられる。

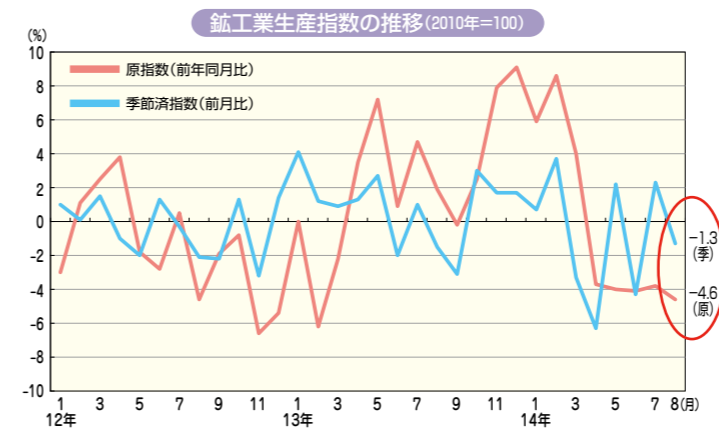
したがって今後の県内景気は、生産活動面では在庫調整が長引き、引き続き弱含みで推移するものとみられ、需要面では一部を除きほとんどの項目で厳しい状態が今しばらくは続くものと考えられ、さらに、このところの急激な円安による消費マインドや企業マインドへの悪影響が加わり、全体的には現状の足踏み状態から下振れの可能性があると思われる。

## 「鉱工業生産指数」は原指数、季節調整済指数ともにマイナス

2014年8月の県内製造業の生産状況については、鉱工業生産指数(2010年=100)の「原指数」は92.8、前年同月比-4.6%で5か月連続のマイナス、「季節調整済指数」も99.4、前月比-1.3%で2か月ぶりのマイナスとなり、一進一退で推移している。季節調整済指数の3か月移動平均値(7月)は99.5で、12年12月以来19か月ぶりに100の水準を下回り、前月比伸び率は-1.1%と再びマイナスとなり、弱含みで推移している。業種別(中分類)に季節調整済指数の水準をみると、「食料品」や「繊維」「その他」などは比較的高水準で推移しているものの、「窯業・土石製品」や「金属製品」などは低水準が続いている。前月に比べると、「輸送機械」や「化学」は高い伸びとなったが、「金属製品」や「はん用・生産用・業務用機械」は大幅のマイナスとなった。

生産状況の先行きをあらわす「出荷指数」と「在庫指数(製品在庫)」を前年比でみると、出荷は5か月連続のマイナスとなり(原指数92.7、前年同月比-3.0%)、在庫は7か月連続かつニケタの大幅プラスとなっている(同121.3、同+14.0%)。

(注:「滋賀県鉱工業指数」は年間補正が行われ、13年1月分から改定されています)



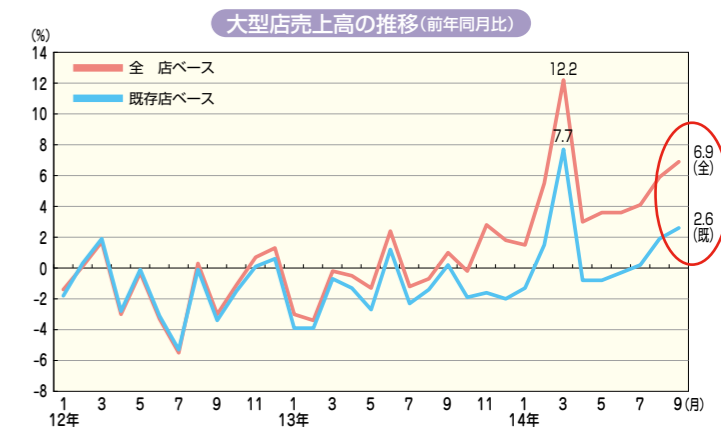
## 「大型店売上高」は3か月連続で両ベースともにプラス

9月の「消費者物価指数(生鮮食品を除く総合/大津市/2010年=100)」は3か月同じの102.8で、前年同月比+2.8%、前月比0.0%となり、前年比では17か月連続のプラスとなっている。費目別にみると、エネルギー(電気代、ガス、灯油、ガソリン)は高水準が続いているものの2か月連続で低下している(前年同月比+4.9%、前月比-0.6%)。一方、消費増税の影響からほとんどの品目で上昇し、なかでも教養娯楽用耐久財や室内装飾品、洋服、シャツ・セーター類、飲料、酒類などで大幅の上昇となっている。

消費増税後6か月目となる9月の「大型店売上高(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は100店舗、前年は94店舗)」は前年比+6.9%となり、堅調に推移している。品目別にみると、「家電機器」(同-5.0%)と「身の回り品」(同-0.5%)は再びマイナスとなったが、ウエイトの高い「飲食料品」が16か月連続で増加し(同+8.2%)、全体をけん引しているのに加え、「衣料品」(同+3.6%)と「家庭用品」(同+0.3%)がともに6か月ぶりのプラスとなった。また、「既存店ベース(=店舗調整後)」の売上高も「飲食料品」が16か月連続のプラス(同

+3.3%)となっているのに加え、「衣料品」が6か月ぶりのプラス(同+2.9%)となったため、全体では3か月連続のプラス(同+2.6%)。

9月の「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」をみると、「普通乗用車(3ナンバー車)」は6か月ぶりのプラスとなったものの(1,861台、前年同月比+3.0%)、「小型乗用車(5ナンバー車)」が前月に続き前年を下回ったため(1,463台、同-9.2%)、2車種合計では3か月連続のマイナスとなっている(3,324台、同-2.8%)。反動減の影響が長引いているのと消費増税の影響が出ているものとみられる。また、「軽乗用車」は前月に続きマイナスとなっている(2,345台、同-5.1%)。今まで消費増税の影響は軽微にとどまり、比較的好調に推移していたが、ここに来て息切れ感がみられる。



## 「新設住宅着工戸数」は3か月連続の大幅マイナス

9月の「新設住宅着工戸数」は702戸、前年同月比-49.0%で、3か月連続で前年を大きく下回っている。引き続き駆け込み需要の反動減の影響が出ているとみられる。利用関係別でみると、今まで好調に推移していた「貸家」が230戸、同-26.8%(彦根市81戸、大津市64戸など)で5か月ぶりの大幅マイナスとなったのに加え、「持家」が363戸、同-28.8%(大津市69戸、近江八幡市40戸など)で9か月連続の大幅マイナス、「分譲住宅」も109戸、同-80.1%(大津市27戸など)で3か月連続のマイナスとなった。分譲住宅の内訳をみると、「一戸建て」は3か月連続で前年を下回り(109戸、前年差-85戸)、「分譲マンション」も申請がなかった(0戸、同-353戸)。なお、「給与住宅」はなかった。

